



災害からいのちを守るために

令和8年度静岡県支部が行う災害救護活動

■ 災害救護訓練や研修の実施

静岡県支部では、災害が発生した際にいち早く救護活動を展開できるよう、静岡、浜松、伊豆、裾野の県内4つの赤十字病院に、医師や看護師などからなる救護班を10班編成し、日頃から血液センターとも連携して、実践力向上のための訓練や研修を実施しています。

令和8年度は、多様化する災害に対応できる救護体制を確実なものとするため、裾野赤十字病院との合同訓練や、テーマを設定した訓練を実施します。

また、県や各機関が行う防災訓練等にも参加して関係機関との連携を強化します。



仮想傷病者の状態を確認する救護班

■ 災害救護機材の整備

発災時の即応体制を整えるため、管内赤十字病院に救急車や医療セット、心電計等を更新・整備します。

また、市町への支援として発災時に避難所の状況確認やニーズを調整する職員派遣のための災害救護用自動車や、被災者へ迅速に救援物資をお届けするための救護用倉庫を更新します。



災害救護用自動車



災害時の被害を少なくするためには日頃から、地域の皆様が自らのいのちを守る「自助・共助」に取り組んでいただくことが重要です。

■ 赤十字防災セミナーの実施

静岡県支部では、地域の防災力向上を支援するため、防災や減災に関する知識や技術を学べる「赤十字防災セミナー」を自治会等を中心に県内各地で開催します。



ひなんじょたいけんのグループワーク

赤十字防災セミナーの主な内容

1/災害への備え

災害発生時に「いのちを守る」備えと災害発生後の「暮らしをつなぐ」備えを学びます。

2/災害図上訓練 (DIG)

住んでいる地域、自宅の危険性や防災資源を地図上で考えます。

3/家具安全対策ゲーム (KAG)

地震で起こる被害をどのように減らすか、自宅（部屋）の平面図を描くことにより、危険な場所を把握し、自らが家具の安全対策の必要性を理解します。

4/ひなんじょたいけん

避難所を作るカードゲームを通じて、避難者の目線で心掛ける点を理解します。

自治会や団体で実施希望の方は、日赤静岡県支部にお問い合わせください！

令和7年台風第15号災害に対する 日本赤十字社静岡県支部の対応

令和7年9月5日、台風第15号の影響で線状降水帯による非常に激しい雨が降り続いたことに加えて、局所的に竜巻等の突風が発生したことに伴い、県内各所で多くの被害が発生しました。

静岡県支部では各市町の被害状況を確認するとともに、特に被害が大きかった牧之原市及び吉田町の要請を受け、発災当日にタオルセットや下着セット等の救援物資を届けました。

また、9月22日から18日間に渡り、こころのケア要員を牧之原市に派遣し、被災者や支援者（行政職員等）のこころのケア活動を行いました。

被災された皆様が1日も早く安心して暮らすことができるよう心よりお祈りしています。

■ 救援物資の配布

体育館や公民館などの日常とは異なる状況である避難所において、少しでも過ごしやすい環境を整備するため、「毛布」や「緊急セット」「安眠セット」などを備蓄しています。今回の災害発生時には、行政職員やボランティアの方々の協力を得ながら、これらの救援物資を被災された方々にお配りしました。

配布した救援物資の内容

毛布 394枚	安眠セット 15個	緊急セット 775個
タオルセット 662枚	下着セット 411個	タオルケット 32枚

■ こころのケア

被災された方や被災者支援を行う行政職員など、心理的な支援を必要としている方々の悩みや不安に思っていることを傾聴するほか、ハンドケアなどの身体的リラクゼーションを行いました。



リラクゼーションを行うこころのケア要員

これらの活動は、皆様からのご支援により続けることができます。引き続き、赤十字活動資金にご協力をお願いいたします。